

| | | |
|-----------|------------|-----------|
| 講義コード | 513151502 | |
| 講義名 | 発達心理学 CD | |
| (副題) | | |
| 開講責任部署 | 幼児教育科 (短大) | |
| 講義開講時期 | 前期 | |
| 基準単位数 | 2 | |
| 時間 | 0.00 | |
| 代表曜日 | 月曜日 | |
| 代表時限 | 2 時限 | |
| 科目分類名 | 専門科目 | |
| 科目分野名 | 教職に関する科目 | |
| 対象学部・年次 | 短期大学部・1～2年 | |
| 必須/選択 | 必修 | |
| 担当教員 | | |
| | | |
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 専任教員 | 設楽 紗英子 | 指定なし |
| 専任教員 | 教務委員会 (短大) | 指定なし |

授業の概要

保育実践に関わる心理学的知識を習得し、発達の視点について理解する。その上で、発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。特に、乳幼児期における保育上の人間関係や環境の意義を重点的に理解する。

授業の到達目標及びテーマ

保育で求められる発達を捉える視点について説明できることを大きな目標とし、子どもの発達に関わる心理学的知識、養護や教育の役割、人や環境の影響について理解を深める。

本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「1.諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」を達成するための科目である。

授業計画表

発達心理学

| 回 | 担当教員 | 項目 | 内容 |
|-----|--------|-------------|---|
| 第1回 | 設楽 紗英子 | 発達のな見方と保育 | 15回の授業を通して理解しておきたい発達のな見方とは何か、発達のな見方の保育における重要性について説明します。 |
| 第2回 | 設楽 紗英子 | 発達段階と発達理論 | 保育に必要な基本的な発達の段階を知ると共に、伝統的な発達理論から発達の捉え方を学びます。 |
| 第3回 | 設楽 紗英子 | 発達と環境 | 発達における環境の要因と発達段階との関連を学びます。 |
| 第4回 | 設楽 紗英子 | 胎児期・新生児期の発達 | 胎児期・新生児期の発達の特徴について学びます。 |
| | 設楽 | | |

| | | | |
|------|-------|------------------------|--|
| 第5回 | 紗英子 | 乳児期の発達： 認知能力 | 乳児期の発達の特徴のうち、認知能力を中心に学びます。 |
| 第6回 | 設楽紗英子 | 乳児期の発達： コミュニケーション能力 | 乳児期の発達の特徴のうち、コミュニケーション能力を中心に学びます。 |
| 第7回 | 設楽紗英子 | 幼児期の発達 | 幼児期の発達の特徴について学びます。 |
| 第8回 | 設楽紗英子 | 愛着：形成過程 | 愛着とは何か、また、愛着を形成する仕組みについて学びます。 |
| 第9回 | 設楽紗英子 | 愛着：関連要因 | 適応的な愛着を形成する要因について学びます。また、ロールプレイを通し、愛着関係を築く関わり方についても考察します。 |
| 第10回 | 設楽紗英子 | 遊び | 発達における遊びの特徴と変化について学びます。 |
| 第11回 | 設楽紗英子 | ことば | ことばの発達や仕組み、ことばの発達を促す関わり方について学びます。 |
| 第12回 | 設楽紗英子 | 自己と感情 | 自己の成立と感情の発達について学び、個を大切に保育とは何かについて考察します。 |
| 第13回 | 設楽紗英子 | 身体的機能と運動機能 | 身体的機能と運動機能の発達について学びます。また、身体的な接触が心（あるいは自己）の発達と大きな関連があることについて学びます。 |
| 第14回 | 設楽紗英子 | 仲間関係 | 仲間関係の発達について学びます。 |
| 第15回 | 設楽紗英子 | 乳幼児期の学び | 乳幼児期の学びについて、これまでの授業で扱った内容から考察します。 |

授業時間外の学修

- 1) 予習 各回のテーマに関連する文献の事前読了や調べ学習を求めます（3時間程度）。
- 2) 復習 各回で扱った内容を指定した方法で振り返り、まとめ、提出してもらいます（1時間程度）。

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

| ① 幼児教育者観 | ② 知識・技能 | ③ 実践力と実務能力 | ④ 人間性と協調性 |
|----------|---------|------------|-----------|
| ◎ | ◎ | ○ | ○ |

ルーブリック

| | | | |
|---|--|--|--|
| 評 | | | |
|---|--|--|--|

| 評価項目 | 優秀 (excellent) | 平均 (average) | 途上 (developing) | 未達 (unachieved) |
|------------|--|---|---|--|
| 理解度 | 授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる | 授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行っていると認められる | 授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる | 授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている |
| 表現 | 授業内容を100%理解しており、臨機応変に発達心理学の知識を用いて保育・教育について意見を述べることができ、表現力がより豊かに身につけていることが認められる | 授業内容をほぼ95%程度理解しており、発達心理学の知識を用いて保育・教育について意見を述べる表現力が身につけていることが認められる | 授業内容をほぼ70%程度理解しており、発達心理学の知識を用いて保育・教育について意見を述べる表現力がやや身につけていることが認められる | 授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている |
| 保育実践への準備状況 | 授業内容を100%理解しており、今後の保育実践でも発達心理学の知識を用いた臨機応変な対応をする準備が、十分に整っていることが認められる | 授業内容をほぼ95%程度理解しており、今後の保育実践でも発達心理学の知識を用いた対応をする準備が整っていることが認められる | 授業内容をほぼ70%程度理解しており、今後の保育実践でも発達心理学の知識を用いた対応をする準備がやや整っていることが認められる | 授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている |

成績評価法 (表形式)

| | 評価基準 | 備考 |
|---------|------|--|
| 定期試験 | 50% | 授業で学んだ知識の確認(特に他者に説明することができるか)や、発達心理学の知識に基づいて保育に関する議論ができるかを評価します。 |
| 小テスト等 | | |
| 成果発表 | | |
| 授業への貢献度 | 20% | 授業ごとに、テーマに沿った個人あるいはグループの活動を行いますので、積極的に参加してください。 |
| レポート | 30% | 授業ごとに、各回のテーマについて理解を深める課題を出します。出欠の如何に関わらず必ず取り組み、提出し、授業内容の理解に役立ててください。 |
| その他 | | |

課題へのフィードバック方法

| | | |
|------------------|-----------------|-------------------|
| 定期試験や小テストの結果について | 課題 (レポート等) について | 模擬授業、プレゼン、発言等について |
| | 掲示板等に正解と講評を掲載 | |

| | | |
|---|---------------------------|--------------------|
| 掲示板等に正解と講評を掲載する | する 授業の中で解説、講評する | |
| ICTを活用した双方向型授業の内容 | | |
| クリッカー、アンケート、小テスト等 ビデオ会議システム チャット 掲示板の活用 | | |
| アクティブラーニングの割合 | | |
| 総授業時間数の30～60%程度のアクティブラーニングである | | |
| アクティブラーニングの内容 | | |
| 書く・話す・発表する等の活動におけるAL | 経験値・技能を高める活動におけるAL | 授業時間外におけるAL |
| 発問の吟味・精選 グループワークのディスカッションやディベート (議論の場と時間) プレゼンテーション コメントシートの活用 小テストや授業内レポートの活用 | | |
| 教科書 | | |
| 原信夫・井上美鈴編著 (2019年) 『子ども家庭支援の心理学』 (北樹出版) | | |
| 参考書 | | |
| 無藤隆他 (2009年) 『よくわかる発達心理学』 (ミネルヴァ書房) 遠藤利彦他 (2011年) 『乳幼児のこころ』 (有斐閣) | | |
| SDGsとの関連 | | |
| 4. 質の高い教育をみんなに | | |
| 研究室 (訪問先等) | | |
| 中央研究棟2階226研究室 直接研究室を訪ねるかチャット等で連絡をして下さい。 | | |
| 電話番号 | | |
| 028-667-7111 (代表) | | |
| 授業用E-mail | | |
| shitara@sakushin-u.ac.jp | | |